

地区活動の見直しと推進

地域福祉推進会議

H30.9

地区活動の見直し

背景

“だれもが安心して住み慣れた地域で生活”
できるように
“共に支え合える地域づくり”に
取り組んできました。

しかし

社協事業の取組み「ぼやける」
社協の主導力「薄まる」

地域活動を見直し 仕切り直し 活動の推進

地区活動における共通の課題

全市的な課題

- 1 認知症・日中を含めた独居・老々世帯の高齢者増
・認知症カフェ、集い(通い)の場の開設、運営の
必要性
- 2 人材育成
・担い手(支えて)不足、町会等の役員頼み
・移動手段の確保
- 3 住民の自主性・主体性が乏しい
・やらされ感の払拭の必要性

地区活動における共通の課題

全市的な課題

4 職員体制

- ・地区担当者単独での困難性
- ・人事異動や役員改選に対応する継続性の確保
- ・地区関係職員間の連携

5 活動範囲

- ・「地区」から、「より身近な」範囲の活動の必要性

地区活動の基本方針

* 地区活動(基本方針)

全市的な共通の地区課題



解消に向けて

社協の統一した方針にもとづく地区活動

- 1 そのうえで、各地区の特性を生かした活動
- 2 地区活動を進める中で、並行して地区別福祉活動計画の策定及び推進につなげる。

目標の明確化と達成手法

課題項目	目標	達成のための手法
1 認知症・日中を含めた独居・老々世帯の高齢者増	・人とつながる居場所づくり	① 地域活動拠点整備事業の実施 ・孤立しない地域づくりのため、「サロン」、「カフェ」等の身近で集い、出会い交流し活動する場をつくる。

目標の明確化と達成手法

課題項目	目標	達成のための手法
1 認知症・日中を含めた独居・老々世帯の高齢者増	・日頃の見守りづくり	② 見守り安心ネットワーク事業の実施 ・身近な範囲で、支援が必要な人を見守り、支えるための市民と専門職のネットワークをつくる。

目標の明確化と達成手法

課題項目	目標	達成のための手法
2 人材育成 3 住民の自主性・主体性が乏しい	・支え手(担い手)づくり	③ 有償ホームヘルプサービス事業の実施 ・社協事業の手法(ノウハウ)を取り入れた、住民等が主体的に関わった地域での生活支援の仕組みをつくる。 ④ ボランティアを養成する。 ⑤ 黒子(裏方)活動を徹底する。

目標の明確化と達成手法

課題項目	目標	達成のための手法
4 職員体制	・地区支援企画会議(地区担当職員連絡会等)で連携	⑥ 地域づくりセンター等、関係機関へ働きかける。
5 活動範囲	・常会、町会単位の活動推進	⑦ 町会連合会等、関係団体、町会へ働きかける。 ⑧ 地域福祉活動推進助成事業を見直す。

具体的な取組み

目標達成のための具体的な取組み

次の3事業の事業内容や実施方法の見直しを別途、並行して進めます。

- 手法 ① 地域活動拠点整備事業の実施
- ” ② 見守り安心ネットワーク事業の実施
- ” ③ 有償ホームヘルプサービス事業の実施

具体的な取組み

手法④から⑧の項目の具体的な取組み

- 地区活動の方針を示し、地域福祉推進会議で共有し、地区担当職員が担当地区で活動を実践
- 地域福祉推進会議が活動進捗状況の管理と担当者のフォローアップ

地区活動の方針

地区活動の方針は、30年9月時点のものであり、進捗状況により時点ごとに見直しを行います。

また、**基本的な活動方針を示すもの**で、既に取り組みが進んでいる地区については、**取り組みを一層に推進**します。

住民が自主的に考え、主体的な取り組みを推進するため、地域づくりセンター、地域包括支援センター等と連携し、地域支援企画会議等の検討により、地区協議体等へ積極的に働きかけます。

具体的な活動(行動)

手法① 地域活動拠点整備事業の実施

別途、「通いの場づくり」を並行して検討を進めます。

概念

- 1 「日常的に」 …… 月2回、週1回程度
外出する機会とし、頭と身体を動かし、介護予防につなげるもの
- 2 「身近な地域で」 …… 町会、常会
歩いて行けて、閉じこもり防止や安否確認につなげるもの
- 3 「地域でふれあう」
新しい仲間ができ、助け合いにつなげるもの

具体的な活動(行動)

手法② 見守り安心ネットワーク事業の実施

別途、事業の見直しを並行して検討を進めます。

- ・事業見直し後、ネットワークが分かりやすいものとなる事例を地区に提案し、地区に合ったものとなるように地区内で検討を進める方向とした検討

具体的な活動(行動)

手法③ 有償ホームヘルプサービス事業の実施

別途、事業の見直しを並行して検討を進めます。

・町会単位での事業説明会を通じて、地区内の支え合いの必要性や、支え手の重要性の理解を求め、地区資源(住民・民間・NPO法人等)を活用した仕組みの検討を地区内で進める方向として検討

具体的な活動(行動)

手法④ ボランティア養成の実施

- ア 地域づくりセンター長と連携、有償ホームヘルプサービス事業の地区内の推進を提案
- イ 町会単位での説明会の開催の調整
- ウ 地区内でのボランティア講座の開催を提案
- エ ボランティアセンターの講座(傾聴・終活)活用
- オ 四賀地区、城東地区の取組み参照

〈留意事項〉

- ・個々に直接声かけし、参加要請
- ・一般論でなく、顔なじみの講師が、地区の実情に触れた内容の話
- ・受講生の仲間づくりも重要
- ・何のための講座なのか、目的を明確にし、参加者に必要性を認識させる。

具体的な活動(行動)

手法⑤ 黒子(裏方)活動の徹底

ア 団体等への働きかけは黒子に徹し、相手方の主体性を引き出すことを基本

イ 地区関係者(地域づくりセンター長、包括支援センター、福祉ひろば、民生委員)と相談、リーダーシップの取れる人材を掘り起し、協力依頼

ウ 同様に、協力者を増やし、企画の段階から連携

〈留意事項〉

- ・地域に出かけ関係を築き、候補者に接触
- ・女性のパワーを活用
- ・コーディネートは身近な人材は敬遠されることを念頭に

具体的な活動(行動)

手法⑥ 地域づくりセンター等、関係機関へ働きかけ

- ア 地域づくりセンター長会で、「地域包括ケアシステム構築のための活動方針」の説明と協力依頼
- イ 地域づくりセンター長を訪問し(担当者と責任者同伴)活動方針の再説明や町会単位の活動について意見交換及び、アドバイスを受ける。
- ウ 地域支援企画会議で社協活動方針の説明提案

手法⑦ 町会連合会等、関係団体、町会へ働きかけ

- ア 各団体へ、「活動方針」や「事業の推進」について説明、協力依頼

具体的な活動(行動)

手法⑧ 地域福祉活動推進助成事業の見直し

- ア 担当地区の助成事業内容を把握
- イ 助成金の使い勝手や特色・問題を抽出
- ウ 担当者会議で検証、見直しの検討
- エ 見直し(案)の策定